

平成27年度 鍼灸学ユニット研究活動状況

A. ユニットメンバー

錦織綾彦、榎田高士、川本正純、吉備 登、坂口俊二、木村研一、戸村多郎、山崎寿也、北川洋志

B. 活動報告

以下の各テーマに沿って、個人およびグループ研究（学外との共同研究含む）を行った。

<榎田高士>

1. 麻酔科領域で経鼻挿管に用いる気管チューブ加温のサーモグラフィによる条件設定を検討し、日本サーモロジー学会第32回大会（東京）で発表した。
2. 過去から現在に至る、鍼灸の鎮痛に関する領域について調査し、ペインクリニック領域での鍼治療の臨床活用と応用について、日本ペインクリニック学会第49回大会（大阪）にて基調講演を行った。
3. 鍼灸の安全性に関する教育について、鍼灸師を養成する大学および専門学校間で情報交換を行い、日本における安全教育の現状分析および今後のありかたについて、WFAS（カナダ）で発表した。
4. 鍼灸治療とSSP療法について、そのメカニズム、効果、応用などについて検討を行っている。平成28年度に分担執筆として発刊の予定である。

<吉備 登>

1. 鍼灸治療のインシデント・アクシデントについては、それらのレポートの集約をおこない、適格な施術者が行えば極めて安全な治療法であるが、皆無にはならない。その対策について、第67回日本良導絡自律神経学会学術大会（京都）にて発表した。

<坂口俊二>

1. 若年女性の冷え症と関連する症状の検討
これまで冷え症の鍼灸治療効果の判定に用いてきた評価法（「冷え日記」）について、冷えと14症状の関連を相関分析で再検討し、第64回全日本鍼灸学会（福島）で発表した。さらに、詳細な解析を進め、論文作成の予定である。
2. 冷え症に対する鍼治療の臨床研究
「成熟期女性の冷え症に対する鍼治療の有効性を検証する多施設共同無作為化比較試験」の成果を論文にまとめ、日本東洋医学雑誌に受理された。
3. スポーツ競技者に対する円皮鍼刺激の下腿後側部皮

膚温への影響

アキレス腱中央部障害に対する鍼刺激の基礎的研究として、下腿後側部への円皮鍼刺激が、運動負荷後の皮膚温低下の遅延効果について、偽円皮鍼、無刺激コントロールと比較研究を大学院生（迫 宏典）と行った。研究成果は迫が日本サーモロジー学会第33回大会（奈良）にて発表予定である。

4. 若年男女の冷え症を識別する項目の抽出とその診断精度

質問紙を用いて若年者を対象に冷え症の自覚の有無により、性別毎に身体的あるいは行動・適応的な特性を比較検討し、抽出された冷え症の指標となる項目から診断精度を算出することを目的とした研究を行い、その成果はJournal of Integrative Medicineに掲載された。

<木村研一>

1. 局所冷却による下肢血流と筋交感神経活動への影響
局所冷却による下肢血流と筋交感神経活動への影響について学外との共同研究を行い、結果は現在、投稿中である。
2. 低周波通電療法が筋酸素動態に及ぼす影響
低周波鍼通電の通電時間および刺激方法の違いが筋酸素動態に及ぼす影響の違いについて大学院生（宇野誠）と研究を行った。研究結果は大学院生（宇野誠）が第64回全日本鍼灸学会（福島）にて発表した。

<戸村多郎>

1. 五臓スコア（FVS）で中高年者の健康状態が評価できるのか、血液・尿検査値等との関係を地域住民で調査した結果が原著論文としてEvidence-Based Complementary and Alternative Medicineで2015年10月に公開された。
2. 東洋医学的診断とストレス評価について学会発表した。
3. 肩こりの東洋医学的病態把握について学会発表した。
4. 大学生の東洋医学的診断とストレス・生活習慣について学会発表した。
5. 第64回全日本鍼灸学会（福島）の印象記が雑誌掲載された。

<山崎寿也>

1. 第64回全日本鍼灸学会（福島）において、研究部安全性委員会メンバーとして鍼灸の安全性に関する

ワークショップを行った。

2. ラット延髄孤束核へのタンパク質直接導入法によるタンパク導入が意識下ラットの循環に及ぼす影響についての研究を行っている、本結果は、第93回日本生理学会（札幌）で発表を行った。
3. 全日本鍼灸学会研究部安全性委員会で行った、多施設間「鍼灸の安全性に関する調査」（関西医療大学での調査部分）について検討を行った。本結果は、第65回全日本鍼灸学会（北海道）で発表予定である。

<北川洋志>

1. トリガーポイント鍼刺激による心血管系自律神経活動の筋による反応性の違い
様々な筋のトリガーポイントへの鍼刺激時と無刺激時の心血管系自律神経活動の反応性の違いに関する実験を行い、現在論文作成を進めている。

C. 研究業績

著書

花岡一雄編集. 誰にでも理解できる緩和ケアの実践書. 2015. 克誠堂出版. 東京. (榎田高士: 251-256頁の「鍼灸治療」を分担執筆)

坂本 歩監修. ポケット鍼灸臨床ガイド. 2015.4 アルテミア. 大阪. (榎田高士: 25-40頁の「医療過誤を起こさないために」を分担執筆)

原著

Extraction of items identifying hiesho (cold disorder) and their utility in young males and females. Sakaguchi S, Kuge H, Mori H, Miyazaki J, Tanaka TH, Hanyu K, Takeda T, Sasaki K. *J Integr Med.* 2016 Jan;14(1):36-43. doi: 10.1016/S2095-4964 (16) 60232-7.

Tomura T, Yoshimasu K, Sakaguchi S, et al. Influence of Biomedical Factors on the Five Viscera Score (FVS) on Middle-Aged and Elderly Individuals: Application of Structural Equation Modeling. *Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine.* 2015, vol. 2015, Article ID 687015, 8 pages.

Wingo JE, Low DA, Keller DM, Kimura K, Crandall CG. Combined facial heating and inhalation of hot air do not alter thermoeffector responses in humans. *Am*

J Physiol Regul Integr Comp Physiol. 309 (5) :R623-7. doi: 10.1152/ajpregu.00018.2015.

白井麻衣子, 宮寄潤二, 久下浩史, 坂口俊二, 森 英俊. 肩こりと健康関連QOLとの関連. *QOL J.* 16 (1) : 36-44. 2015.

坂口俊二, 森 英俊, 宮寄潤二, 古田高征, 百合邦子, 周防佐知江, 成島朋美, 久下浩史. 成熟期女性の冷え症に対する鍼治療の有効性を検証する多施設共同ランダム化比較試験. *日東洋医誌.* 2016. (印刷中)

学会発表

Yamashita H, Furuse N, Murakami T, Shinbara H, Sugawara M, Umeda T, Katai S. Developing an effective syllabus for safe acupuncture practice based on a workshop. *World Federation of Acupuncture - Moxibustion Societies* 2015. 9. Toronto

高杉嘉弘, 榎田高士. 経鼻挿管に用いる気管チューブ加温のサーモグラフィによる条件設定. 第32回日本サーモロジー学会大会. 2015. 6. 東京

榎田高士. 基調講演: ペインクリニック領域における鍼灸治療の現状と課題 第49回日本ペインクリニック学会大会. 2015. 7. 大阪

吉備 登, 田中泰史, 林 正貴. 鍼灸治療の落とし穴 (その2). 第67回日本良導絡自律神経学会学術大会. 2015. 10. 京都

田中泰史, 林 正貴, 吉備 登. 鍼灸治療の落とし穴 (その3). 第67回日本良導絡自律神経学会学術大会. 2015. 10. 京都

白井麻衣子, 宮寄潤二, 久下浩史, 坂口俊二, 森 英俊. 冷え特異的症状尺度からみた冷え症と不妊症との関係について. 第64回全日本鍼灸学会学術大会. 2015. 5. 福島

坂口俊二, 久下浩史, 宮寄潤二, 竹田太郎, 小島賢久, 森 英俊. 冷え症に対する鍼灸治療の効果判定に向けて—冷えと関連する症状の検討—. 第64回全日本鍼灸学会学術大会. 2015. 5. 福島

坂口俊二. 医師向け入門講座1「鍼・灸とは? デバイス

の説明と基本実技」. 第64回全日本鍼灸学会学術大会. 2015. 5. 福島

坂口俊二. 医師のための鍼灸セミナー1入門編「刺鍼基礎(初めて鍼を持つ人のために)」. 第66回日本東洋医学会学術総会. 2015. 6. 富山

久下浩史, 白井麻衣子, 宮寄潤二, 坂口俊二, 戸村多郎, 森 英俊. 肩こり特異的症候尺度と東洋医学的病態(五臓・気血水)の関連について. 第16回日本QOL学会. 2015. 9. 東京

宇野 誠, 龍神考慶, 木村研一, 若山育郎. 低周波鍼通電療法が筋酸素動態に及ぼす影響(第2報)―通電時間および刺激方法による比較―. 第64回全日本鍼灸学会学術大会. 2015. 5. 福島

木村研一. 鍼灸治療の作用機序についての基礎研究からの考察.(シンポジウム: 鍼灸のメカニズムとエビデンス) 第66回日本東洋医学会学術総会. 2015. 6. 富山

松本恒平, 木村研一, 宇野 誠, 五十嵐純, 金井成行. 手技療法が心臓自律神経機能と筋酸素動態に及ぼす影響. 第24回日本柔道整復整骨医学会学術大会. 2015. 10. 新潟

木村研一. 頸腕症候群に対する鍼治療の効果と作用機序.(シンポジウム: 鍼灸が治療効果を示す症状とその作用メカニズム) 第93回日本生理学会大会. 2016. 3. 札幌

戸村多郎, 坂口俊二, 下市善紀, 小島賢久, 福田文彦. 東洋医学的診断尺度によるストレス評価について. 第64回全日本鍼灸学会学術大会. 2015. 5. 福島

阿部峰歩, 高木護博, 戸村多郎, 坂口俊二, 山口由美子, 下市善紀, 王 財源. 大学生における東洋医学的診断尺度「五臓スコア(FVS)」とストレス・生活習慣との関連. 平成27年度日本東洋医学会関西支部例会. 2015. 10. 大阪

Toshiya Yamazaki, Partha Das, Masanobu Maeda. Effects on hemodynamics in chronic phase in protein direct introduction into the rat nucleus tractus solitarius. 第93回日本生理学会. 2016. 3. 札幌

D. その他

榎田高士. リスク管理. 平成27年度 認定保険鍼灸マツサージ師基礎講習会. 2015. 5. 大阪

吉備 登. 良導絡とは. 第14回日本良導絡自律神経学会近畿ブロック講習会. 2015. 4. 大阪

吉備 登. 眩暈の鍼灸治療. 第14回日本良導絡自律神経学会近畿ブロック講習会. 2016. 3. 大阪

坂口俊二. きょうから使えるツボの話. 岸和田健老大学. 2015. 7. 大阪

坂口俊二. むくみ, 冷え, 肩こりに対するツボ刺激を活用したセルフケア. ピップ総合研究所学術講演会. 2015. 9. 大阪

坂口俊二, 中尾哲也, 相澤慎太. 「体に負担をかけない働き方・ケアの方法」. 新関西国際空港(株)主催セミナー. 2015. 11. 大阪

坂口俊二. 冷え症における基礎・臨床・エビデンス・セルフケア指導法について. セイリン(株)冷え症に対する鍼灸治療セミナー. 2015. 12. 大阪

木村研一. 鍼灸治療が血流や自律神経に及ぼす影響. 第33回広島県鍼灸学術大会. 2015. 9. 広島

木村研一. 鍼灸治療が筋血流や自律神経機能に及ぼす影響. 岡山県鍼灸医学会C講座. 2015. 11. 岡山

家本旬二, 泉 重樹, 今村頌平, 上原明仁, 工藤 匡, 関真亮, 戸村多郎, 増山祥子, 脇 英彰, 渡部正司. 第64回全日本鍼灸学会ふくしま大会印象記, 医道の日本. vol.74. No.7. 159-170. 2015

山崎寿也. 平成27年度 鍼灸師卒後臨床研修 ‘肥満’ AcuPOPJ 国民のための鍼灸医療推進機構 2015. 9. 大阪

山崎寿也. 平成27年度 鍼灸師卒後臨床研修 ‘痩せ・食欲不振’ AcuPOPJ 国民のための鍼灸医療推進機構 2015. 9. 大阪

山崎寿也. 平成27年度 鍼灸師卒後臨床研修 ‘リスク

管理' AcuPOPJ 国民のための鍼灸医療推進機構. 2015.
12. 大阪

北川洋志. トリガーポイントの理論と実技・腰痛. 関西
運動器障害研究会. 2015. 6. 大阪

北川洋志. 【トリガーポイント鍼治療】新説トリガーポイ
ント療法 トリガーポイントの理論と腰痛治療, 医道の日
本. vol74. No.12. 91-99. 2015